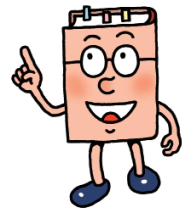


新しい漢字を学ぼう 1



●このページで学ぶ漢字は、16ページから35ページで使われています。

1 — の漢字に気をつけて、次の文を読みましよう。

- ① 切り株につまずき、足の筋をいためる。
- ② 警備の仕組みを簡潔に説明する。
- ③ 弟の手つきはいかにも危なっかしい。
- ④ 会社勤めの骨休めに旅行をする。
- ⑤ 座ぶとんに開いた穴をつくろう。

2 次の文章を読みましよう。

道路にとつぜん穴が開いた。通勤や通学の人たちに危険がないよう、警官が注意をよびかけている。

<p>・キ あぶない</p>	<p>危 危危危危危危</p>	<p>・カン</p>	<p>簡 簡簡簡簡簡簡簡簡簡簡</p>	<p>・かぶ</p>	<p>株 株株株株株株株株株株</p>
<p>・危機 危害</p>	<p>6画</p>	<p>・簡易 書簡</p>	<p>18画</p>	<p>・株式 株が上 がる</p>	<p>10画</p>
<p>・コツ ほね</p>	<p>骨 骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨</p>	<p>・あな</p>	<p>穴 穴穴穴穴穴</p>	<p>・ケイ</p>	<p>敬言 敬言敬言敬言敬言敬言敬言敬言敬言敬言</p>
<p>・骨格 骨組み</p>	<p>10画</p>	<p>・穴つめ 節穴</p>	<p>5画</p>	<p>・警報 警護</p>	<p>19画</p>



表現のおもしろさを味わおう

雪わたり

宮沢 みやざわ
堀内 ほりうち

賢治 けんじ
誠一 せいいち

絵 作

雪わたり その一 (子ぎつねの紺三郎)
こんざむらじ

雪がすっかりこおって大理石よりもかたくなり、空も冷たいなめらかな青い石の板でできているらしいのです。
「かた雪かっこ、しみ雪しんじ。」

お日様が、真っ白に燃えてゆりのにおいをまき散らし、
また雪をぎらぎら照らしました。

木なんかみんな、ザラメをかけたようにしもてぴかぴか
しています。

「かた雪かんど、しみ雪しんど。」

四郎しろうとかん子とは、小さな雪ぐつをは

いてキックキックキック、野原に出ました。

★ザラメ
きびの畑



こんなおもしろい日が、またとあるで

しょうか。いつもは歩けないきびの畑の中

でも、すすぎでいっぱいだった野原の上で

も、好きな方へどこまででも行けるのです。

平らなことは、まるで一枚の板です。そしてそれが、たくさんさんの小さな小さな鏡のようにキラキラキラキラ光るので

す。

「かた雪かんど、しみ雪しんど。」

二人は、森の近くまで来ました。大きなかしわの木は、枝もうずまるくらい立派なすき通ったつららを下げて、重そうに体を曲げておりました。

「かた雪かんど、しみ雪しんど。きつねの子あ、よめいほしい、ほしい。」

と、二人は森へ向いて高くさげびました。

しばらくしいんとしましたので、二人はも一度さげぼう

として息をのみこんだとき、森の中から、

「しみ雪しんしん、かた雪かんかん。」

と言いながら、キシリキシリ雪をふんで、白いきつねの子が出てきました。

四郎は、少しぎょっとして、かん子を後ろにかばって、しっかり足をふんばってさげびました。

